

「村上春樹と『恋愛の作法』」

“光る一言”が救いに

名古屋が舞台の小説「色 講師は、現代文学が専門で彩を持たない多崎つくる 村上春樹の研究に取り組むと、彼の巡礼の年」で話題 専修大准教授の米村みゆきとなつた村上春樹を、恋 さん。

愛」という観点から読み解 世界中で翻訳され、読まなく「村上春樹と『恋愛の作法』」が十月から始まる。文化などを描く一方、本気

専修大准教授 現代文学専門

米村みゆきさん

の恋愛や表面のみの軽い恋愛など、さまざまな恋愛のあり方を作中に盛り込んである。今回は「フルウェインの森」や「1Q84」などを読んでいく。

このほか、地下鉄サリン事件を題材にした「アンダーグラウンド」も取り上げ、恋愛ものとは違う魅力も探る。「この作品では美

際に取材した相手の生の言葉を、文中で使っています。それがその人にとつての「真実」。たとえ間違っているとしても、そのままの真実を大切にしています」

「村上春樹は、私たちにそうとは意識させずに人間の普遍的なものを、心の痛みや闇、心の危機を書き続けています」と指摘する。救う手だてとして、物語の中で分かりやすい解決法を示すのではなく、さりとて光る一言を登場人物に言わせ、読者を救われたような気分にしてくれる。つまり、回復への物語。「それが魅力の一つ。きつと心根が優しいのでしょう」

米村さんは「研究もまだあまりされておらず、表面的な印象のみの批評が多い作家です。しかしこれから先、もっと深く読まれるようになるでしょう。みなさんも、ぜひこの機会に村上春樹の面白さを感じてみては」と講座への参加を呼び掛ける。

「村上作品を深く読み、その面白さを感じてもらいたい」と語る米村みゆきさん＝川崎市市の専修大で

第1金曜午後1時。6カ
月分1方2600円